

令和元年度（2019年度）

自己評価 報告書

学校法人福岡保健学院
下関看護リハビリテーション学校
理学療法学科

(※令和2年4月より法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更)

本報告書は、学校法人巨樹の会 下関看護リハビリテーション学校の理学療法学科教員の
自己評価結果を記したものである。

令和2年7月1日

学校長 林 研二

学校評価実施責任者
副学校長 木村 公治

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的・方針

- ①教職員が自己評価を行う中で、学生教育並びに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ②自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④自己評価は本校の学校評価実施規定に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会委員（9名）

委員氏名	所 属
林 研二	下関看護リハビリテーション学校 学校長
鮫島 陽子	下関看護リハビリテーション学校 顧問
木村 公治	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副学校長兼事務長代行
森寺 智子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科副学校長代行兼教務部長
藤本 一美	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務部長
佐野真由美	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科教務主任
上田 雅子	下関看護リハビリテーション学校 看護学科教務主任
林 輝真	下関看護リハビリテーション学校 理学療法学科副教務主任
小林 愛	下関看護リハビリテーション学校 看護学科実習調整者

(委員会は自己評価の実施、評価、検討のために随時開催する)

3) 自己評価方法

令和元年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価の結果と併せて、健全な画工運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

1) 評定基準

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
 A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
 C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 項目Ⅱ 学校運営
 項目Ⅲ 教育活動
 項目Ⅳ 学修成果
 項目Ⅴ 学生支援
 項目Ⅵ 教育環境
 項目Ⅶ 学生募集
 項目Ⅷ 財務
 項目Ⅷ 法令等の遵守
 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

「人間愛・自己実現」という教育理念のもと、理学療法学科の教育目的・目標を掲げ学生教育に取り組んでいる。教育理念・目標についてはパンフレット・ホームページ等で公表している。

課題

教育理念、教育目的・目標、人材育成像について、学内において、さらに浸透させるために伝える機会を増やす。

改善の方策

教育理念、教育目的・目標、人材育成像について、ホームルームなどで機会を捉えて周知を行っていく。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: A

■コメント

「人間愛・自己実現」という教育理念のもと、技術と知識を基盤とした実践能力のある理学療法士を養成するとともに、対象者を共感的に理解し、受け入れ、主体的に専門的な知識・技術を生涯追求し、人格向上のための自己研鑽を怠らず、自己実現を成し遂げることができる人材を育てていくことを本校の教育理念としている。また、この教育理念に基づいた理学療法学科の教育目的・目標を掲げ学生教育に取り組んでいる。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: A

■コメント

教育理念・目的・目標については、学生便覧や学内掲示にて学生・保護者に周知している。教育理念・目標についてはパンフレット・ホームページ等で公表している。

小項目 I-3

教育目的・目標、人材育成は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: A

■コメント

本法人および本校の教育目標、人材育成は、日本理学療法士協会の教育ガイドラインに記されている到達目標に沿って設定されている。また、教育課程編成委員会ならびに実習指導者会議等を通じて、業界ニーズを教育に取り入れている。

項目 II 学校運営**総括**

法人の方針・事業計画に則った本校の学校教育における運営方針・計画について管理者・教職員の意思統一が図れている。また、運営組織や意思決定機能についても明確にされており、滞りなく学校運営がなされている。

課題

働き方改革による年次休暇の取得目標は達成できている。今後は、ICT(情報通信技術)の活用などによって、さらなる業務の効率化を図っていく必要がある。

改善の方策

- ・会議の時間短縮・効率化(事前資料提出、打ち合わせの実施、ICT 活用)、学科内の役割分担の再検討、学事や委員会活動等の年次計画と事前準備計画の可視化を行うことによる残業時間の短縮を図る。

小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか

■自己評価: A

■コメント

本法人の運営会議にて、年度ごとの本法人の事業計画が策定され、その中で各校のリハビリテーション学院・学校 5 校の教育方針、重点目標が設定される。また、それを受け、本校理学療法学科としての管理目標・教育目標を設定している。また、それに沿った各教員の個人目標を設定し、計画立案、実施、評価(中間・年度末)を行っている。評価終了後は役職者との個人面談も実施している。なお、法人の事業計画書は法人のホームページ上で公開されている。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか

■自己評価: A

■コメント

本校の学校教育における運営方針・計画について管理者・教職員の意思統一が図れており、学校運営会議・管理会議が意思決定会議として位置付けられ、最終的な意思決定がなされている。なお、会議・委員会の組織ならびに運営については学則に規定されるとともに、概況書に運営組織図、会議の位置づけが記載されている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

情報システムについては、学事サーバーにて学事に関する情報管理を行い、業務の効率化を図っている。校内では共有サーバーを設置・管理し、必要な資料やマニュアル等は適宜活用できるようにしている。今年度は、共有サーバーのフォルダを整理し、情報を検索しやすくすることで、業務効率の改善に役立った。また、関連学校・病院のTV会議システムを整備し、効率化が図られている。

項目 III 教育活動**総括**

1 年次より段階的にスキルアップできるようグループ統一のカリキュラムが組まれている。臨床実習についても、5 校全体で委員会を設け、各校や各実習施設からの意見を取り入れながら、常に改善を図っている。

本校は、今年度よりタブレット端末を導入し、講義および実技指導で活用している。また、看護学科と協力し他職種連携教育についても取り組みを開始している。

課題

目的意識が低い学生や学力面でサポートが必要な学生が増加傾向にある。

改善の方策

1 年次より、活躍する先輩理学療法士の話聞く場を設け目標設定、意欲の向上に役立てる。また、1 年次早期より低学力者を把握し、個別や少人数での学習支援に取り組んでいく。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A

■コメント

教育課程の編成方針、実施方針に関しては、教育理念のもと、指定規則に従いグループのカリキュラム委員会、運営委員会で決められている。教育課程の編成方針はカリキュラムポリシー（CP）として、学生便覧およびホームページに掲載されている。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A

■コメント

キャリア教育に関しては、1年次より段階的にスキルアップできるようグループ統一のカリキュラムが組まれている。

臨床実習についても、5校全体で委員会を設け、各校や各実習施設からの意見を取り入れながら、常に改善を図っている。臨床実習の手引きに臨床実習の理念、到達目標、指導方法等が記載されている。また、実習の実施にあたっては、関連業界である実習病院との実習反省会や日頃の実習訪問等にて実習病院からも意見をいただき、随時修正が行えている。

理学療法技術の習得のために、教授方法・演習方法を工夫している。具体的には、iPad を実技指導や実技試験フィードバックや復習などに活用している。

今年度よりタブレット端末を一部の授業で導入した。次年度は、さらに活用科目数を増やすとともに、内容の充実に努めていく。また、看護学科と協力し他職種連携教育についても開始している。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A

■コメント

授業評価に関しては、学生に授業評価アンケートを各期授業終了時に実施し、教科担当者の振り返りに使用している。また、教員間での授業評価およびフィードバックを実施している。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: A

■コメント

資格取得の指導体制（国家試験対策）については、1年次より計画的に実施している。3年次には、セミナーや個別指導も実施している。卒業生（不合格者）の個別指導も無料で実施している。対策については、毎年振り返りを行い、修正を加えながら充実を図っている。今年度も、早期に低学力者を把握し、早期より少人数や個別対応など低学力者の学習強化を図った。また、チューター制をとることによって学生の学習の進行状況の確認、精神面フォローを行った。全国模試の成績や各教員からの学生状況報告をもとに、国家試験対策計画を適宜調整し、より最適なものにしながら対策を進めた。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

法人としても学会や研修会への参加を奨励している。教員自身の自己研鑽意識も高く、学会や研修会に積極的に参加している。また、法人において教育力向上を目的に毎年研修会が開催され、全教員が参加している。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職に関しては、これまで1期生から13期生まで100%を達成している。今年度も早期より、様々な就職活動支援を実施し、目標を達成することができた。

国家試験については、1年次より計画的に取り組み、3年次にはセミナーや個別指導など積極的に取り組んだ。特に、早期より低学力者への学習支援に取り組んだ。結果的には学生の成績は全体的にかなり向上したものの、満足いく結果が得られなかった。

退学率の低減のために、様々な取り組みを行い、退学率を低く抑え、高い進級率を得ることができている。

課題

入学者の学力が低下傾向にあるため、可及的早期から対策を実施していく必要がある。

改善の方策

これまでの学習支援に加え、情報通信技術(information and communication technology、以下 ICT と記す以下)を活用し学生全員が能動的に取り組むような授業などの工夫、ICTを活用した学習支援などに取り組んでいく。また、国家試験対策の見直しも行っていく。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

就職活動セミナー、マナー講座、関連病院見学、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報の共有を図り指導に役立てている。関連病院では、グループ校を優先した就職試験が実施され連携が図られている。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: B

■コメント

1 年次より計画的に実施している。3 年次には、セミナーや個別指導も実施している。卒業生(不合格者)の個別指導も無料で実施している。対策については、毎年振り返りを行い、修正を加えながら充実を図っている。今年度も、早期に低学力者を把握し、早期より少人数や個別対応など低学力者の学習強化を図った。また、チューター制をとることによって学生の学習の進行状況の確認、精神面フォローを行った。全国模試の成績や各教員からの学生状況報告をもとに、国家試験対策計画を適宜微調整し、より最適なものしながら対策を進めた。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント

退学率の低減のために、①定期的な面談、②学生状況の早期把握と教員間の情報共有、③気になる学生に対する早期面談、④校内カウンセラーによるカウンセリング、⑤保護者との電話連絡や面談、⑥低学力者の早期把握と学習支援を実施している。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A

■コメント

今後も学生の活動状況を把握し、ボランティア活動等を促していく。

項目 V 学生支援**総括**

進路・就職に関しては既に記載の通り、しっかりと支援を実施している。

学生の相談に関しては、日頃から声をかけ話しやすい雰囲気をつくるとともに、担任を中心に面談を実施している。また、カウンセラーによるカウンセリングも取り入れている。また、保護者との電話連絡や面談を適宜実施している。

高校・高等専修学校等との連携(高専連携)に関しては、積極的に情報発信するとともに、高校のキャリア教育等への協力要請にも応じている。

課題

今後さらに高専連携を強化していく必要がある。

改善の方策

学習成果を向上させていくとともに、高校に本校の魅力をしっかり伝えていくことで、選ばれる学校にしていく。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

就活セミナー、マナー講座、関連病院見学、就職説明会、履歴書作成指導、面接指導を実施するとともに、就職活動状況を随時把握し、情報共有を図り指導に役立てている。

関連病院では、グループ校を優先した就職試験が実施され連携が図られている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント

日頃より、学科教員全員が学生に声をかけコミュニケーションをとるように心掛けている。

学科内で学生の情報共有を図り、学生に関わっている。また、管理会議での両学科の学生情報共有も行っている。

担任制をとっており、定期面談や、必要に応じ随時面談を実施し、積極的に学生からの相談を受けている。また、必要に応じ役職者を交えた面談も実施している。

校内カウンセラーが週 1 回勤務し、学生の希望に応じてカウンセリングを実施している。カウンセリングの案内は入学時に全学生に説明するとともに、常に掲示板等に掲示している。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A

■コメント

成績や生活面で気になる学生に関しては、早期に保護者へ連絡を行うとともに、必要に応じて保護者面談も実施している。1年生は8月、2年生は8月と12月に保護者会を実施している。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント

今年度は厚狭高校2年生(6月)、下関国際高校保護者(6月)、宇部西高校1年生(9月)のキャリア教育を受け入れ、職業についての説明、体験、学内見学等を実施した。また、高校を訪問しての職業ガイダンス、高校の進路指導室への訪問等で情報提供を実施した。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: A

■コメント

早期入学決定者に対する初年度授業料減免制度、家族入学割引制度、特待生減免制度、災害被災に伴う修学支援制度がある。また、学生寮を完備することで学生の経済的負担を軽減している。これらの情報については、ホームページや冊子(パンフレットとともに配布)等にて情報を公開している。

項目 VI 教育環境

総括

これまでの指定規則に定められた教育環境は整えられている。令和2年度に改定される指定規則に合わせた教材の購入については計画的に進めている。学内のWi-Fi環境も整備され、ICT教育が実施できる環境が整っている。

防災に関しては、毎年2回消防避難訓練を実施している。また、今年度防災マニュアルを作成した。

課題

防災マニュアルについて教職員・学生への周知を図るとともに、防災についての学習や訓練なども取り組んでいく必要がある。

改善の方策

防災に関する学習、訓練等を計画し実施し、防災に関する意識を高めていく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

施設・設備・機器・備品・図書等は設置基準、関係法令に適合し、学習効果を向上させるためにプラスアルファで揃えている。Wi-Fi環境も整備し、iPadを導入した授業も開始している。施設・設備等定期的に点検を行い、補修が必要な箇所については、予算を付けて対応している。教材についても同様に実施している。今年度、全ての照明をLED化した。黒板からホワイトボードへすべて変更を実施した。指定規則改定に伴う教材の購入準備を進めている。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S

■コメント

臨床実習、生活機能演習、対人関係演習などカリキュラム内の科目に関する実習施設は十分に確保されている。教育体制(実習指導体制)については、グループ5校と関連病院との連携が十分にとれ、本校においても教員が実習訪問し、指導者との調整や学生指導を実施している。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント

年に2回消防訓練を実施している。

災害対応マニュアルが完成し、4月より運用開始し、学生へ周知徹底をはかっていく。

項目VII 学生募集

総括

パンフレットやホームページ、SNS、広報媒体等を用いての情報発信、オープンキャンパス・学校説明会・ガイダンス、高校訪問や教諭向け学校説明会での情報伝達を積極的に行っている。

課題

少子化、高校再編等が進む中、入学者確保はさらに難しくなることが予測される。

改善の方策

今後も学生ひとりひとりを大切にされた教育を実践し、学修成果を高めていくことで高校生・保護者、社会人、高校教諭の方々、そして地域からの信頼を高めていく。また、これからも積極的に情報発信を行うことにより、本校の魅力を伝えていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A

■コメント

高校訪問、高校ガイダンス、会場ガイダンスへ積極的に参加し、情報提供を実施している。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: A

■コメント

資格取得・就職状況等の情報について、パンフレット、HP、学校説明会、オープンキャンパスでの情報提供を実施するとともに、質問にも適切に回答を行っている。

項目VIII 財務

総括

法人および学校の運営方針に則り、適切に財務管理が行われている。

課題

少子化、高校再編等が進む中、学生募集はさらに難しくなることが予測されるが、しっかりと入学者を確保し、今後も財政を安定化させていく必要がある。

改善の方策

教育と並行し学生募集活動も積極的に取り組んでいく。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A

■コメント

中長期的な計画の下、学校運営がなされている。法人全体としても安定した収入と資産があり、財政基盤は安定しているといえる。本校においても学生数は増減があるものの、経営努力により収支の均衡は保たれている。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: A

■コメント

学校の運営方針に沿った事業計画に基づき、両学科が調整を図ったうえで予算を計上し、法人本部・理事会で承認された予算が通達される。それに基づき本校では適切な運営がなされている。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: A

■コメント

財務は、法人本部と各学校の二重体制の管理が行われている。また、法人および本校に対して外部監査が毎年複数回実施されており、これまで特に大きな指摘は受けていない。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令順守は、法人全体で取り組まれている。本校においても法令を遵守している。
個人情報保護に関しては、法人全体で規定を設けるとともに、教職員、学生への指導を行っている。

課題

本校では、これまで問題は起こっていないが、昨今、世間では若者の SNS 等を通じての情報漏洩や不適切動画の投稿が問題となっているため、今後も職員ならびに学生に対して教育を継続していく必要がある。

改善の方策

教職員・学生に対して、SNS ならびに個人情報保護に関する教育を毎年実施していく。

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント

法令遵守は、法人全体で取り組まれている。本校理学療法学科においても、「理学療法士及び作業療法士法施行令及び学校養成施設指定規則に基づく報告(専修学校実態調査票の提出)」を毎年5月に行い、法令を遵守している。

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: A

■コメント

個人情報保護に関しては法人で統一した規定を設けており、職員が遵守すべき事項が定められている。学生についても初年次より SNS の取り扱いを中心に個人情報保護についてのセミナーを実施している。また、臨床実習における個人情報保護については臨床実習の手引きに記載するとともに、実習前に指導を徹底している。

項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献

総括

山口県理学療法士会や関連病院等に施設貸し出しを実施している。また、理学療法学科教員による高校の部活動支援にも取り組んでいる。学生へのボランティア活動については、一部の学生は積極的に参加するものの、まだまだ数が少ない現状にある。

課題

ボランティア活動を学校として積極的に推奨していくための対策が必要。

改善の方策

令和2年度より正課のカリキュラムの中に、ボランティア活動への参加が組み込まれた。また、今後も地域から要請があったボランティア募集については学生に周知し、参加を促していく。

小項目 Ⅹ-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A

■コメント

- ・学校施設については、関連病院、職能団体や卒業生へも施設の貸し出しを行っている。
- ・関連病院職員、卒業生へも図書の閲覧を許可している。
- ・理学療法学科教員による、高校部活動支援を実施している。

小項目 Ⅹ-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: B

■コメント

- ・学業に支障のない範囲で、ボランティアへの積極的な参加を促している。
- ・スポーツに関連したボランティアにも参加できるように、学内でコンディショニングサークルを今年度立ち上げた。
- ・次年度改訂されるカリキュラムにおいて、正規授業の中にボランティア活動が組み込まれた。